

平成31（令和元）年度

学校評価総括表

奈良県立吉野高等学校

教育目標		校訓の至誠・進取・剛健・親和を旨として、人権を尊重し民主的で平和な社会と新しい文化の創造に努める人間を育てる。				総合評価	
経営方針		<ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒一人一人の夢と希望の実現に向け、確かな学力を育むと共に、達成感と成就感を伴う多くの成功体験を保證することで、豊かな社会性と人間性をもつ生徒を育てる。 ○ 実学教育を推進し、生徒自らの未来を自分で切り拓くため、将来にわたり学習する意欲と態度を培うことで、地域社会の発展や産業の振興に貢献できる人材を育てる。 ○ 規律ある生活を通して、規範意識の育成や基本的な生活態度の涵養を図り、心身ともに健康で忍耐力のあるたくましい生徒を育てる。 				B	
平成31年度の成果と課題		本年度重点目標		具体的目標			
地域と共にある学校を目指し、様々な取組を行ってきた。本年度はこども園に三科合同の体育倉庫を作成した。コンテスト等の兼ね合いもあり、生徒のみで完成させることはできなかったが、子どもたちと高校生のつながりは一定の成果があった。		1 校外での挨拶、マナー等、規範意識の向上に努め、高校生として社会に通用する素養を身に付ける。		学校行事への主体的な参加、部活動、ボランティア等社会参画活動の推進を通して、生徒の規範意識を高め、自律する力を養う。			
		2 コミュニケーション力の充実に努め、地域と学校の活性化に努める人材を育成する。		課題研究発表会等で、自己の考えや調査結果を発信する力を養い、専門知識と技術を生かしながら、地域で活躍する有意な人材を育成する。			
		3 生徒に自分の進路を意識させることで、学ぶ意欲を引き出し、自ら進路を実現できる力を養う。		「進路学習プログラム」を基軸とした取組を確実に実施し、生徒が希望する進路の実現を図る。			
		4 地元地域の異校種間の連携を密にとり、地域に信頼される学校づくりを推進する。		三学科がもつ特徴的な教育活動を通して、地域コミュニティとしての役割を果たすと共に、「産・官・学の連携」をより一層進める。			
評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価結果	成果と課題（評価結果の分析）	改善方策等	学校関係者評価（結果・分析）及び改善方策	
式典・渉外等	学校・家庭・地域社会が相互に協力して、開かれた学校づくりを推進する。	○式典・行事等において、いろいろな意見を取り入れ細部にわたって改善を重ねる。 ●分掌・学年・学科間の連携を密にし情報収集に努める。	A	A	式典等を卓球場で実施することが定着した為、他分掌と連携して使用することができた。諸先生方よりご意見をいただき、更に改善していく余地はある。	各分掌・学年・学科等と更なる連携を図り、諸先生方の意見を取り入れ、より良い進行方法を模索する。	○本年度は夏休みにもオープンスクールを開催していただき、生徒も興味をもってもらえたと思う。 ○オープンスクールでの「ものづくり教室」は奈良南になってもぜひ続けていただきたい。地域で楽しみにしている方もいらっしゃる。
		○オープンスクールでの「ものづくり教室」において、地域住民との交流を深める。 ●地域住民参加者数を昨年度の2割増しを目指す。	B		吉野高校としては最後の「ものづくり教室」となったが、参加者は、昨年11名、一昨年15名、今年度は森林に4名のみとなった。	来年度は、奈良南高校としてのオープンスクールとなる為、新たな方法を考える必要がある。	
	渉外活動の更なる充実を図り、魅力ある学校づくりを推進する。	○中学校訪問・オープンスクールの内容改善・各科の大会参加の成果をHPに載せるなどの広報活動を継続して行う。 ●活動の成果や問題点など関係者から意見を聞き、充実度を上げる。	B		昨年度は中学生8名、今年度は13名であった。高校適正化問題もあるのか目立った成果を上げることができなかった。	上記同様、実施方法又は、内容について新たに考える必要がある。	
	育友会活動の活性化を図る。	○育友会活動への積極的な参加と、役員間の連携や共通認識をより一層深め、活動を活性化させる。 ●役員の方々の各行事への協力体制の強化を図る。	A		高P関連の会合には、会長が仕事の合間を縫ってできる範囲で参加していただいた。校内行事においては、副会長が中心になってできる限りのご協力をいただいた。来年度は参加協力役員が減少し、活動の低迷が予想される。	次期役員には、Cブロック役員や全国大会奈良大会等の役割が回ってくることから、参加可能な役員の選出が望まれる。吉野・大淀・奈良南の育友会問題もあり、協力体制の強化が必要である。	

評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価結果		成果と課題(評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価(結果・分析)及び改善方策	
学習指導	新学習指導要領に沿って学習の更なる充実を図る。	○基礎学力の向上を重点におき、これからの時代に求められる資質を持った社会人として活躍できるように、教育活動を展開する。 ●到達度別学級編制などを行うことで、綿密に基礎学力の定着を図る。授業内アンケートを実施し、生徒の満足度90%を目指す。	B	B	指導力向上、魅力ある授業づくりのための公開授業と研究協議を実施した。今年度は特にICTを活用した授業やアクティブラーニングの方法を活用した授業が増え、充実した教育活動が展開された。 少人数制でのきめ細かい指導ができた。生徒の満足度も昨年並みで良好であった。	教科や学科間で連絡会等をもち、生徒が意欲的に学習できるような教材や授業方法に関する研修を重ね、より一層充実した教育活動を展開する必要がある。また来年度は、授業評価を兼ねて全教員の公開授業と研究協議を目指したい。 生徒数が減ってきているため、よりきめ細かい指導を実施し、生徒の満足度を上げる努力が必要である。	○実業高校として生徒の学習や実習を充実させることで、地域に貢献できる人材を育ててほしい。 ○生徒がより興味をもって取り組めるよう最新の教材を揃えるなど、予算の確保をしていただきたい。	
	専門学科での特色を生かした授業展開を目指す。	○2・3年次における各専門科での授業において、課題研究を中心に専門性の高い内容に取り組む。 ●生徒の興味・関心に応じ、授業内容を精査することで、専門知識を生かした進路実現の達成率向上を目指す。	A		専門性を高めた授業により、地域連携をはじめ、専門性を活かした活動や取組が充実した。知識・経験を生かした進路実現を希望する生徒が増加し達成率が向上した。	生徒減少のため実習で支障が一部出ている。授業の工夫やTTを活用した授業で専門性を充実した内容が必要である。 生徒一人一人に充実した授業や実習を展開できる状態のため、進路実現に向けた長期計画が必要である。		
生徒指導	高校生として自覚をもち、規律ある行動ができる生徒を育成する	○さらなる特別指導の減少 ●特別指導、10件以下を目指す。規範意識を高める集会等を各学期1回以上行い、生徒の所属意識を高める。	B	B	本年度の特別指導件数は、1学期9件、2学期4件、3学期1件で、学期を追うごとに減少した。また、1年生の特別指導件数は8件と最も多かった。	問題行動を減少するべく、特に、1学期当初のオリエンテーションや規範意識を高める集会の内容を再考する。	○生徒の様子は毎年良くなっている。朝・夕の挨拶の声もよく耳にするようになっている。 ○内面的に難しい生徒が多くなっているようだ。研修等を通じて先生方の力量を高めていただきたい。	
		○通学マナーのさらなる向上 ●生徒の実情に合わせて乗車指導、ターミナル指導、地域指導等を展開する。	A		乗車や地域マナーに関する外部からの苦情は1年生のみで、1学期に2件であった。継続して指導を展開する。	現状に満足することなく、生徒の発達等、実情に応じた指導方法を再考・展開し来年度に繋げたい。		
	カウンセリングの充実	○生徒の心の相談にあたる。 ●月1回相談日を設置し、生徒が学習に意欲をもつように支援する。	A		A	スクールカウンセラーに対応いただいた。相談した生徒について充実した学校生活を送れるよう対応いただいた。		スクールカウンセラーから、研修の機会をいただき、生徒の内面等について共通理解することができた。今後も継続したい。
	生徒会活動の充実	○生徒主体に各行事のさらなる活性化を図る。 ●月に1回以上、生徒会と教員が会議を持ち、各行事の取組の見直しを図る。	A		B	学校行事や地域活動に自主的に活動を行った。特に警察と協働の「ひまわりの絆プロジェクト」を通して地域の交通安全啓発を行った。		現状に満足することなく、生徒が自主的に活動できるよう、各行事の篩い分けや内容の見直しを図る。
○生徒会プリント配布 ●会議で月の目標を決め、朝のSHRで生徒会長から放送にて連絡し、活動を促す。		C	会議で生徒会の目標などを決定したが、生徒の実情等を考慮して、SHRでの生徒会長からの放送は行わなかった。	生徒の実情等に考慮して、生徒会から放送で連絡や各クラス室長または、クラス担任等から連絡し活動を促す。				

評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価結果		成果と課題 (評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価 (結果・分析) 及び改善方策
進路指導・ キャリア教育	生徒に自分の進路を意識させ、自ら進路を実現できる力を養う。	○性格・適性チェック・シートを実施し、自らの性格の特徴を把握し、自分の進む方向・指針をしっかりと見極める。 ●1、2学年に実施する。	B	A	1年生にSuccess Checksheetを、2年生には「職業レディネス・テスト」を実施した。	6月のHRでは、新たな行事を導入することも検討する。	○就職の状況は良いようだ。見学を通して本当に行きたい事業所を見つけられるよう努力していただきありがたい。 ○就職面で有利な実業高校の強みをもっと広報して生徒確保にもつなげてほしい。
		○「進路の手引き」を発行する。 ●全校生徒に配布する。	A		大型連休前に、全校生徒及び職員に配布することができた。	変更点、改良点を踏まえ、改訂を施す。	
		○進路に関する行事を外部講師を迎え、実施する。 ●3学年の「就職セミナー」にも外部講師を依頼する。	A		「就職セミナー」の面接指導に外部講師を招いた。	夏期休業中の面接指導も含めて、外部講師の招聘を継続したい。	
	社会人として必要なマナー、常識を身に付けさせる。	○3学年の「就職セミナー」や面接指導を通して、マナー、挨拶、服装、心構え等の向上を図る。 ●本年度も学校推薦による就職内定率を100%にする。	B		就職先内定に当たって、年を越してしまった者が出たことと、縁故で就職希望する者への指導が徹底できなかった。	売り手市場の状況を鑑み、学校推薦による就職の優位性を周知していきたい。	
	進路先の学校、事業所との連携を密にとり、社会で求められる人材と生徒の個性の把握に努め、信頼され、期待される学校づくりを推進する。	○企業訪問を精力的に実施する。また、来校者の本校に対する意見や要望を十分に吸収する。 ●卒業生の就職先への訪問を通し、また、来校者との面談を踏まえて、求められる人物像の把握と、本校の教育内容の周知に努める。	A		応募前見学の引率を通じ、多くの事業所に訪問できた。卒業生の就職先には進路指導部の先生方が訪問し、事業所と学校の相互理解を深めることができた。また、名刺交換会等で新たに就職先を開拓できた。	ミスマッチを防ぐために、仕事内容の把握に努め、その情報を周知徹底する方策を練る。生徒には、事業所からいただくパンフレット等の閲覧をこれまで以上に奨励する。	
人権教育	生徒の豊かな人間性の育成のため、人権教育HRの内容を充実させる。	○生徒たちが自ら主体的に考えることができるような内容を心がける。 ●ワークショップを含め、生徒参加型のLHRを年2回は実施する。	A	B	車椅子体験や、災害時の避難所の設営・運営のしかたを考えるHRを実施した。大変積極的にHRに参加し、いきいきと活動していた。	性的マイノリティについてのHRがまだ実施できていないので、性的自認や性指向について生徒たちが自らを振り返ることができるようなHRの展開を模索し、実施を検討する。	○人権については社会に出る前にしっかりと学習してほしい。 ○生徒が十分に理解できるよう、体験学習を取り入れていただき、ありがたい。
		○人権教育HRの事前打ち合わせおよび事後研修を充実させる。 ●生徒たちの実態の変化や、HRにおける反応をもとに、HRの進め方を見直し、指導案を改善する。	B		指導案をもとに、各学年でHRの事前事後研修を行った。 HRの時のみの学習になりがちで、本当に差別をなくしたいという思いの共有に至っていない。	指導案の内容や展開にある程度の自由度を持たせ、教員が自分自身の人権教育との関わりを生徒たちに語れる時間を設けた。 差別をなくしたいという思いは人権教育を進めていくための原動力であるので、それを共有し、そのために自分に何ができるのか考えていくことが今後の課題である。 すべての生徒が学習に自主的・意欲的に取り組めるよう、支援のユニバーサル化を目指して研修を行っていきたい。	
	生徒の多様化を踏まえ、すべての生徒が安心して学校生活を送れるよう柔軟な配慮をする。	○生徒の個々の特性を捉え保護者と連携して、より実態に即した支援・指導を行う。 ●個別の支援計画を作成し職員が共通理解のもと指導にあたる。			中学校から提供された情報をもとにし、個別の指導計画を作成して個々の特性に合った支援を行った。		

評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価結果		成果と課題 (評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価 (結果・分析) 及び改善方策
		●わかりやすい奨学金の案内を作成し確実に保護者に伝える。	A	B	奨学給付金の学校代理受領が可能になったこともあり、生徒たちの教育を受ける権利の確実な保障につながってきている。		
	教職員自らの人権意識と様々な課題に対する実践力を高めるとともに、保護者との連携を深める。	○生徒の実態に即した研修を企画し、諸団体実施の講演会等に積極的に参加する。 ●職員全体研修を年2回実施する。また保護者と共に参加できる研修に年1回は参加する。	B		夏期休業中に2種類の発達特性をもとに、より人との関わりをスムーズにし、日々の生活を豊かにしていくための職員研修を行った。	できれば1年に2回職員研修を実施し、部落問題学習についての研鑽を深めたい。 夏期休業中に実施される保護者と共に参加できる研修に是非とも参加する。	
文化図書	文化祭の一層の充実と活性化を図る。	○文化祭実行委員会が中心となり、生徒が主体となって企画・運営等を行う文化祭にする。また、テーマ等を早期に決め、クラス等の発表がテーマに沿ったものになるようにする。 ●文化祭終了後、アンケートを行い、満足度80%以上を目指す。	B	B	文化祭は、無事に実施することができた。しかし昨年度同様実行委員会よりも教員主導の文化祭であったように思われる。また、テーマを早期に決めたもの、テーマに沿った発表等ができていないように思われた。文化祭事後アンケートを行うことができなかったため、次年度の課題とし、更なる発展を目指したい。	文化祭実行委員が司会や受付等、運営に携われるようにする。学年当初にはテーマを決め、文化祭実行委員を中心に、各ホームルームでテーマに沿った取組ができるようにし、生徒の意欲・関心を高める。 文化祭アンケートをしおりに挟み、生徒が展示や演説・バザーに参加しながら評価できるように改善する。	○文化祭を見せていただいたが、各科の研究発表等しっかりと取り組んでいる様子がうかがえた。 ○奈良南高校の文化祭は吉野校舎でもしていただきたい。
		○学習の成果や学習への取組の発表の場となるようにする。また各学科の取組等が一年生の進路選択の参考になる機会になるようにする。 ●課題研究の発表の場ではなく、各学科の取組や特色の発表とする。	A		各学科の研究発表を見ることで、学年を超えて各学科の取組や特色を理解でき、1年生の次年度の選択に役立てることができたと思われる。	発表内容に、各学科の特色を生かした独自の取組や、より充実した発表を図る。 今年度に引き続き、1年生の次年度の進路選択の参考になるようにする。	
	○近隣地域への公開を継続し、日頃の取組を公開することで、開かれた学校づくりの充実と本校への理解発展につとめる。近隣の方々への案内を早く行い、参加しやすいようにする。 ●訪問者の数を前年度比150%になるようにしたい。	B	学校近隣住民の方々へ文化祭のチラシ・招待状を500枚配布した。研究発表や生徒作品等を見学していただき、高評価をいただくと共に、本校を理解していただいた。 また、配布時期を昨年度より早めたものの、前年度比100%は達成できた。		地域の方々と共に取り組むことのできる「ものづくり」や地域に関わる研究・調査等、工夫ある取組をし、より充実した文化祭を創造する。 各学科・文化系クラブの展示等に体験活動(ブースを設ける等)を取り入れ、訪問者数が増加するような取組に努める。	○読書をする必要性は良く言われているところです。生徒が読書できる環境の整備をしていただきたい。	
	図書館の有効利用促進をはかる。	○図書館の環境整備を行い、図書の閲覧、貸し出しができるようにする。 ●夏期休業中の課題設定にある読書感想文に合わせて、1学期末は開館する。 ○「図書館だより」を発行し、図書に関する広報活動を積極的に行うとともに、読書の啓発を行う。	B	図書館の環境整備・蔵書点検はできなかった。そのため、生徒に図書の貸し出しを認めることもできなかった。 1学期末も開館はしたものの、生徒は数名ほどしか訪れてこなかったため、次年度の課題にしたい。「図書館だより」は2回発行し、読書の啓発を行った。特に冬休み号には新しく行った	図書の把握・整理をするため、図書部員・文化図書委員と定期的に、図書館の環境整備・蔵書点検を行う。 1学期末、図書部員・文化図書委員と共に、図書館の開館をする。その際、読書感想文のためのコーナーを設ける等、利用者増加に努める。「図書館だより」を発行することで、読書や		

評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価結果		成果と課題(評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価(結果・分析)及び改善方策
		<ul style="list-style-type: none"> ●「図書館だより」を年2回以上発行する。 ○蔵書点検を行う。 			読書会(集団読書)の取り組みについて掲載し、生徒の活動を保護者に伝えることもできたのではないかと思われる。	図書館に関心を持たせ、読書意欲の向上に努める。また、図書部員の活動やオススメ本を掲載する等、掲載内容も検討していきたい。	
	読書の楽しさや素晴らしさを認識させ、本を読む習慣を身につけさせる。	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒が読書に親しみ、楽しさを体感できる取組を推進し、生徒の読書意欲の向上を目指す。 ●全校一斉の読書会を2回実施する。 	B		読書会(集団読書)を2回実施することができた。特に今年度は新たな取組を行ったことにより、通常よりも生徒が本と向き合う機会をつくることができた。	今年度の取組を生かし、新たな読書会(集団読書)の取り組みを次年度も考え、生徒の読書意欲の向上に努めたい。	
保健体育	体育の授業や行事を通して専門的技術、体力、コミュニケーション能力の向上を目指す。また、生徒に主体性を身に付けさせる。	<ul style="list-style-type: none"> ○チーム競技、持久走を強化し体力の向上を目的とした運動を毎回の授業で展開する。 ●生徒に応じた設定タイムや専門競技を行い、仲間との連携、個々の体力の向上を図り、達成率100%を目指す。 	A	B	体育の授業ではコミュニケーション能力の向上を目指しチーム競技に重点を置き、授業を展開した。また、持久走を強化し、体力が向上した。生徒自らが日常的にトレーニングできるようにすることが課題である。	さらなる体力の向上を図るためには、生徒自らが進んでトレーニングを行えるよう、運動が楽しいと思えるような意識付けが重要である。	<ul style="list-style-type: none"> ○体育大会も少人数であるが故の工夫をしていただき、実施できているようである。基礎体力は社会に出ても必要なもので、高校生の内に向上できるよう働きかけてほしい。 ○食育等食事の大切さを繰り返し指導していただきたい。
		<ul style="list-style-type: none"> ○生徒個々の体力に応じた目標を設定し、体力テストの結果の向上を図る。 ●本校の体力テストの平均値を前年度比で県及び全国の平均値に肩を並べる。 	B		体力テストの結果は年次では少し向上傾向にあるが、県及び全国平均と比べると全体的に劣る。さらなる体力の向上が必要である。	日常の運動量は体育の授業等だけでは不十分であるので、生徒が日常に自主的に運動を取り入れられるよう働きかけが必要である。	
		<ul style="list-style-type: none"> ○授業の準備体操や集団行動、授業の準備・片付け等を生徒主体で行うよう徹底する。また、体育大会やマラソン大会の行事で生徒が主体的に活動できるように運営する。 ●達成率100%を目指す。 	B		授業の準備や片付け、準備体操等は生徒が主体的に活動できた。しかし、体育大会やマラソン大会等の大きな行事は人数の影響もあって生徒ができることは限られていた。	生徒数が少ない中で大きな学校行事等も生徒主体で運営できるよう工夫する必要がある。まずは、体育大会の競技種目や競技数、時間配分等を改めて考え直す。	
	生徒に健康管理を行う力を身に付けさせるとともに日常生活で役に立つ知識を身に付けさせる。	<ul style="list-style-type: none"> ○保健の授業で健康管理という観点に重点を置き、それぞれの分野の授業を展開する。 ●達成率100%を目指す。 	A		それぞれの保健の授業で健康管理という観点を念頭に置き、授業を展開した。	各授業を通して健康管理の意識付けはできたが、それを実際に行動に移せるような対策が必要。	
	<ul style="list-style-type: none"> ○食育についてのHRや保健便りでの食事指導、保健の授業を通して食に関する意識を高め、食育を推進する。 ●生徒の朝食摂取率90%を目指す。 	B	B	保健便りを活用してのHRや保健の授業を通しての意識付けを行った。しかし、生徒の朝食摂取率は85%で目標には届かなかった。	引き続きHRや保健の授業を通しての意識付けはもちろん、講演会等を開催して朝食摂取の重要性を示していく必要がある。		

評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価結果		成果と課題 (評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価 (結果・分析) 及び改善方策	
環境整備	学校内外を美しく保つ。	○清掃美化活動を習慣化させる。 ●担任と清掃監督の教員が連携をとり毎日清掃を実施する。行事の前後に美化委員を中心に全校生徒で大掃除を行う。	A	A	先生方の指導により、毎日清掃が徹底されてきた。行事前後の大掃除が実施できた事で、他の場所の定期的な清掃活動ができた。 生徒全員が通学路を清掃する事により、地域への環境美化活動に取り組む事ができた。 美化委員を中心に清掃用具の点検を行ったが、すべての箇所の用具交換はできなかった。 ストーブの維持・管理と使用規定の徹底に努めた。 地震を想定した避難訓練と消防署員指導による火災に対する防災訓練を行った。 普通救命講習をとおして心肺蘇生法、AEDの使用方法などを習得させ、命の大切さと応急手当の重要性を認識させることができた。	毎日の清掃活動や通学路清掃を定着させる事により、生徒に校舎内外の美化意識を向上させる。清掃場所の監督と担任が連携をとり、清掃活動の充実を図る。	○通学路等の美化活動がありがたい。生徒数の減少もあり通学路にゴミが落ちている事も少なくなったが、清掃活動をすることでゴミを捨てないよう意識が高まっているのではないかと。	
		○清掃活動を通して地域社会に貢献する。 ●生徒全員が年間2回以上通学路を清掃する。	A					
	備品や設備の充実を図る。	○教室の備品や清掃用具などを管理する。 ●年間2回以上清掃用具や備品の点検、補充を行う。暖房器具の維持管理や適切な給油計画を立てる。	B	B		A		定期的な点検の機会を設け、用具交換の必要な箇所の優先順位をつけて対応する。 業務員の方の協力もありスムーズな給油が行えている。燃料の節約した使い方も提示していきたい。
		安全管理に努める。	○生徒の安全確保に努める。 ●防災訓練を年間2回実施する。 ○緊急時に救命処置や応急手当が行える知識と技術を習得させる。 ●普通救命講習を2年生全員受講させる。	A		A		繰り返し訓練を継続して行うことにより、生徒・職員ともに災害や緊急時に冷静に判断し、適切な行動がとれる能力を身に付ける。
森林科学科	農業クラブ活動の充実を図る。	○プロジェクト・意見発表会等各種競技会に向け、取組を強化し、活動の充実と発展を図る。 ●全クラブ員が年間を通じた運営に参加し、奈良県学校農業クラブ連盟大会及び近畿大会の成功を目指す。	B	A	本年度も、全国大会出場は農業鑑定競技だけであった。プロジェクト発表は、県大会で優秀となった。 奈良県で開催された近畿大会には、役員を中心に運営に参加し、成功裏に大会を終えることができた。	地域の課題解決に向けた、地域貢献分野で研究テーマを選択し、継続的な研究に取り組むことで、実績や実践を重ね評価を高めていく。	○葉ボタンの配布や吉野川左岸を守る会等地域連携を実践している事を情報発信してほしい。	
		○交通安全啓発グッズや葉ボタン配布等のボランティア活動に積極的に参加し、社会性を培う。 ●各学期に1回以上の活動を実施し、地域に貢献する。	A		農業クラブ役員を中心に、諸行事の計画を立て、それぞれの目的を達成しようとする意識を持つことで、意欲的な取組となり、成果につなげた。	社会参加の取組を一層拡充させ、生徒一人一人のボランティア精神を更に高め、社会に貢献できる生徒を育てる。		
	学科の特色を生かした地域貢献を進める。	○吉野の魅力本校から発信し、地域の発展に貢献する。 ●森林科学科の更なる活発な活動を図り、地域の魅力的な情報を全国に発信する。	A	A	吉野調査隊は、「カップの普及活動」「登山届ポストの寄贈」「筏流し復活プロジェクト」等に取り組み、吉野をPRする機会を持てた。 吉野こども園の運動場に三科が連携しログハウス体育倉庫を建てる事ができた。	地域貢献として、地域の要望に本校各教科の教育目的が合致する場合は前向きに検討する。		

評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価結果		成果と課題 (評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価 (結果・分析) 及び改善方策
		○吉野林業活性化を目指し、作業道整備に向けた学習活動を充実させる。 ●演習林や学校近隣の森林整備を行う。	A	A	本年度は清光林業(株)の岡橋克純社長を社会人講師として招き、作業道作りの講義をしていただいた。愛染演習林への作業道の建設計画を含めた調査研究活動を続ける。	愛染演習林の作業道敷設に向け、課題研究テーマとして作業道プロジェクト班を立ち上げ、意欲的に取組を進めていく。	
建築工学科	生徒の希望する進路実現に向けた取組を進める。	○早期から資格取得・検定試験に対する意識を芽生えさせ、受検者を増やし、取得に向けた対策講座等の充実を図る。 ●各種資格取得・検定合格率80%以上を目指し、取得生徒数を増加させる。	A	A	ガイダンスを実施し、意欲を高め、資格の種類や受検者を増加させることができた。また、長期休業期間や放課後を有効に活用し、対策講座や模擬試験等を展開できた。全体では各種資格取得・検定合格率は概ね目標値を達成することができた。	生徒の資格取得の意欲は向上している。指導方法にさらなる工夫を加え、資格取得者の増加を図る。また、資格の種類や上級への合格に向け、対策講座や模擬試験等を継続していく。	○こども園の取組は吉野高校ならではの取組なので広く広報したら良いと思う。
		○生徒一人一人の進路実現に対する意識を高める。 ●インターンシップや体験授業等を通じて建築関連の進路先に興味をもたせる取組の充実を図る。	B	A	校外での施工実習講座や文化財保存課主催のインターンシップ、講話等、建設業に触れることで進路選択に建築関連を希望する・興味を持つものが増えるような取組ができた。	進路先に建築関連を希望する・興味を持つものが増えてきたので、今後も継続していく。また、具体的に業種や企業をイメージすることができるよう展開していく。	
	○さまざまな機会を通して地域社会や保護者を含めた小・中学生等に建築工学科ならではの支援活動を行う。 ●地元中学生を対象に「吉中友灯工房」、地域住民対象に「ものづくり教室」を開催する。	A	A	吉野中学生を対象に夏期休業中に「吉中友灯工房」の技術指導を行った。また、オープンスクールでは、地域の方々を対象に木製の棚の製作を実施した。	今後も「吉中友灯工房」を継続指導したり、地域住民を対象に意欲的に支援活動等の取組を進める。また、オープンスクールの実施内容は好評なので、幅広く地域の方が参加できる工夫をする。		
	○「地域と共にある学校づくり」を推進する。 ●地域イベントへの参加や営繕に関する建築の専門知識・技術を生かし地域に還元する。	A	A	吉野町からの依頼で、よしのこども園に三学科が協力し、倉庫を寄贈する取組を行った。また、建築工学科では吉野材を使用した棚や机も寄贈した。	生徒が学んだ建築の専門知識・技術を生かせる場所として、今後も機会があれば、本校の教育目標に沿った活動に参加させたい。		
土木工学科	専門分野の知識と技術を習得させる。	○基礎・基本を重視した内容を精選し、生徒の実態に即した授業内容の工夫を行う。また、積極的に資格取得に取り組まず。 ●小型車両系建設機械8名以上、小型フォークリフト8名以上の合格者を目指す。	A	A	プリントによる練習問題を繰り返し行うことにより、着実に学力が身につけてきた。 2級土木施工管理技術検定試験を1名受検、小型車両系建設機械特別教育を15名、小型フォークリフト特別教育を12名合格させることができた。	生徒個々の理解度に気を配りながら、例題を多用し根気強く指導を重ねる。入学当初から資格取得に積極的に取り組むように継続的に啓発する。小型車両系建設機械及び小型フォークリフトの講習費の値上げがないよう業者と交渉する。	○毎年コンクリートカーや橋梁模型等の活躍の話聞く。少ない人数で頑張っているようである。来年もできるだけ指導していただきたい。
	専門分野に興味関心を持たせ、土木技術者としてのやりがいや魅力を持たせる。	○専門的な技術を体験させ、各種大会に積極的に参加させる。 ●社会人講師による講座を5時間以上設け、実技指導を受けさせる。 「コンクリートカーレース競技会」及び「建設技術展近畿橋梁模型コンテスト」に参加し、上	A	A	授業以外に社会人講師によるコンクリート実習や左官実習を5時間受講させた。また、高等技術専門学校で、鉄筋工事、圧接工事について受講させた。 大阪城コンクリートカーレース競技会では総合3位、建設技術展近畿橋梁模型コンテストでは製作	専門的な知識と技術を習得できるように社会人講師による実習や現場見学を継続的に行っていく。 各競技会を通して、今年度の改善点を整理し、次年度に向けての改良点を具体的に検討する。	

評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価結果		成果と課題 (評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価 (結果・分析) 及び改善方策
		位入賞を目指す。			部門、学生部門ともに、最優秀賞を受賞した。		
	安全教育の徹底を図る。	○実習や実験などで事故0件、器具の破損0件を目指す。 ●危険を伴う作業(パワーショベル・木工等)では、複数の教員で安全指導にあたる。また、器具・工具の正しい使い方を教え、大切に使用させる。	A	A	安全教育の徹底を科職員全員で取り組み、怪我や事故を招くことなく実習を進めることができた。 機械器機の点検を日常的に行い、作業前に生徒へ取り扱い方を丁寧に指導することにより、器機の大きな破損はなかった。	複数教員で指導にあたり、個々の作業目的を明確にすることにより、安全性を確保する。整理整頓を行い、機械器機に愛着を持ち丁寧に扱うように指導する。	
第1学年	基本的な生活習慣を身につけさせ、自立した高校生活を確立させる。	○学年やクラスの目標をもとに、欠席や遅刻、早退のない生活習慣を定着させる。 ●出席率90パーセント以上を目指す。	B	A	目標は達成できたが、長期にわたり欠席を繰り返す生徒がいるので、その生徒に対する対策が課題である。	家庭と協力して生活習慣を見直し、学校生活を送る意義を根気強く説いていく必要がある。	
		○「集団生活の大切さ」を認識させ、互いに高め合える、より良い人間関係を築く。 ●各学期に1回以上、学年集会を実施する。	A		問題事象が起こる度に1学年全体の問題と捉え学年集会を持ち、生徒それぞれがより良く学校生活を送られるよう説いた。	年度当初に比べると落ち着いた感じはあるが、引き続きその都度指導していく必要がある。	
	学習意欲を向上させ、将来の進路決定に向けた意識を高めさせる。	○授業への遅刻や欠席を無くし、授業に集中できる環境を整える。 ●教室移動時の遅刻を無くす。	A	B	1学期は授業に遅刻する生徒が目立ったが、授業を大切にしよう繰り返し指導した結果、教室移動時の遅刻も含め、遅刻する生徒はほぼいなくなった。	学習活動の基本は、授業を大切にすることであり、落ち着いた取組が学年全体の学力向上、進路決定に結びつくということを今後も伝えていく必要がある。	
		○「学科選択」を常に意識させ、教室での授業だけでなく、実習や実技、定期考査に全力で取り組む。 ●定期考査の出席率100パーセントを目指す。	B		長期に欠席している生徒がいるため目標は達成できなかったが、実習や実技に関して、1学期と比べると落ち着いた状態で真剣に取り組めるようになった。	2年次からの各学科での学習に関して、生徒の希望や資質に応じて実施できるよう計画的に進めていく必要がある。	
	けじめある学校生活を確立し、部活動やボランティア活動への参加を推進する。	○本校の「生徒心得」を守り、高校生として自覚ある行動を定着させる。 ●生徒指導上の問題行動を昨年度と比較して90%以下を目指す。	C	B	残念ながら1学期、2学期ともに生徒指導上の問題行動があり目標達成には至らなかった。	問題行動に関しては、その都度指導してきた成果もあり、落ち着きつつあるが、この先も根気強く継続して指導が必要である。	
		○部活動顧問や生徒会顧問と連携を図り、部活動や生徒会活動、ボランティア活動への参加を推進し、特別活動に意欲的に取り組める生徒を育てる。	A		部活動の参加については低い参加率にとどまっているが、新たな部活動に参加したりと目標はクリアしている。 また、通学路清掃等のボランテ	部活動等に関して、目標は達成できたものの依然低い参加率である。部活動等への積極的な参加は、有意義な学校生活を送ることができ、学校の活性化に	

評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価結果		果と課題 (評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価 (結果・分析) 及び改善方策		
		●生徒の部活動およびボランティア活動への参加率30パーセント以上を目指す。			イア活動にも積極的に参加できた。	繋がるという観点からも参加を呼びかけ続けなければならない。			
第2学年	中核学年としての自覚をもち、責任ある言動のとれる生徒を育成する。	○第2学年としての自覚をもち、はじめある生活態度を身に付けさせる。 ●欠席・遅刻の回数を前年度比50%以下に減少させる。	A	B	<p>新学期当初より第2学年としての心構えを伝えて、欠席・遅刻などを無くしてはじめのある生活ができるように指導したが、一部の生徒で目標を達成できなかった。</p> <p>挨拶や言葉遣い、服装の身だしなみなどは、1年時からの指導が実り定着した。しかし、いじめによる生徒指導上の問題行動があり、人間関係を修復するために多大な時間と労力を要することになってしまった。</p>	<p>高校での2年間の生活を経て、かなりの部分で成長しているという実感がある。出席率のもとより、ルールを守る、挨拶や身だしなみなど、社会生活上基本となる生活態度が身につけてきたので、今後はそれらのことをベースにした洗練された生活ができるように指導する。</p>			
		○ルールを厳守する、挨拶や適切な言葉遣いができる、身だしなみを整えるなど、自らを律する姿勢や態度を育成する。 ●校門指導や授業の開始時に服装の点検を行い、学校生活にふさわしい生活態度を徹底させる。	B						
	進路実現に向けた取組を理解させ、学力の向上を目指す。	○日々の授業を大切にすることが進路の実現に結びつくことを理解させ、将来に向けて意欲的に取り組む姿勢を育む。 ●早期に進路目標を決定させ、インターンシップや企業見学の参加を積極的に奨励する。	A	A				<p>日々の授業に取り組む姿勢は概ね良好であり、各学科での専門的な授業や資格取得に積極的に取り組むことができた。その結果、進路希望調査でも、かなり明確な目標をもつ生徒の割合が増えた。</p>	<p>第3学年では、生徒全員の進路希望が実現できるように、各学科・進路指導部と連携して進路指導に取り組む。また、目標を絞り切れていない生徒について、情報提供、現地見学など積極的なアプローチをしながら、具体的な目標をもてるように指導する。</p>
		○「進路学習プログラム」に従って、第2学年としての取り組みを推進する。 ●積極的に資格取得に取り組むとともに、基礎講座に積極的に参加させる。	A					<p>進路指導部の学習プログラムによって、特に進路HRでは職業体験や学校説明に熱心に取り組むことができた。</p>	
	修学旅行や学校行事等の課外活動に意欲的に取り組む意欲と態度を育成する。	○主体的に修学旅行に参加することで充実した活動になるよう、意識の醸成に努める。 ●生徒の積極的な参加を促し、修学旅行満足度80%以上を目指す。	A	A				<p>第2学年として最大の学校行事である修学旅行は、天候に恵まれ、クラスや学年全体で楽しい思い出をつくることができた。また、今まで以上に深い人間関係を築くことができた。</p>	<p>第3学年では、卒業という最大の目標に向けて、これまで培ってきた人間関係をさらに深めて、人生の大きな思い出となるように学年全体で取り組む。</p> <p>各学科、クラス、クラブ活動、校外での活動等を通してできた仲間など、様々な人間関係の中で成長できた自分が実感できるような指導にする。</p>
		○学校行事への積極的な参加を促し、集団での自分の役割を自覚した行動ができる生徒を	B					<p>学年や学校行事に参加する生徒の様子から、集団での自分の位置や役割を自覚した行動がで</p>	

評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価結果		成果と課題 (評価結果の分析)	改善方策等	学校関係者評価 (結果・分析) 及び改善方策
		育てる。 ● 学年全体で各行事に積極的に参加し、参加率100%を目指す。			きるようになってきたことが実感できたが、参加率100%は達成できなかった。		
第3学年	生徒の進路意識を高め、社会に通用する生徒を育成する。	○ 一般常識、面接、筆記、小論文等の指導を充実させ、進路実現を図る。 ● 進路決定率100%を目指す。	A	B	第1回の就職試験において、ほとんどの生徒が一発合格するなど、進路指導の成果をあげることができた。	就職セミナーや面接練習等を今後も継続することで、来年度以降も吉野高校の進路決定率100%を目指していく。	
		○ 挨拶やマナー等、規範意識を向上させるとともに、欠席や遅刻のない習慣を定着させる。 ● 出席率95%以上、特別指導0件を目指す。	C		B	特別指導や頭髪指導を受ける生徒がおり、規範意識の向上を徹底することができなかった。	
	○ 学校行事の企画・運営に積極的に参加させ、主体的に取り組む姿勢を身に付けさせる。 ● 吉野高校での生活満足度100%を目指す。	A	A	学校内外の行事において、積極的に参加する姿勢が見られた。メディアにも取り上げられるなど、充実した取組ができた。	学校のために何ができるかを生徒に考えさせることで、主体的な活動を促す。		